

東日本大震災による水産業の被害実態と復興の足がかり

愛知県における水産業の被害実態

甲斐正信

愛知県農林水産部水産課

愛知県では、平成23年(2011年)3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による津波の第一波が遠州灘に面する田原市赤羽根で午後4時21分に107cmが観測され、午後5時31分に最大の高さの波155cmを観測した。また、三河湾では午後5時19分に豊橋市三河港42cm、半田市衣浦49cmの第一波を観測し、最大の高さは三河港が70cm、衣浦が74cmとなった(気象庁ホームページ <http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/gaikyo/monthly201103.pdf>)。

愛知県では、今回の津波により漁船の転覆8隻やのり養殖施設20基の破損の被害などが発生し、水産業関係施設等の被害額は合計862万円であった。

被害の内訳は、遠州灘に面する田原市赤羽根町の赤羽根漁港で係留してあった5トン未満の漁船2隻が転覆大破し、被害額350万円であった。三河湾に面する西尾市一色町では、5トン未満の漁船6隻がエンジン浸水などによる297万円の被害、のり養殖浮き流し施設20

基の破損による200万円の被害が発生した。また、西尾市幡豆町では小型定置網2統の支柱が破損し、15万円の被害が発生した。主たる被害となった漁船については、船主が加入していた漁船保険の適応を受け速やかに修復がなされた。なお、伊勢湾に面する常滑市、美浜町、南知多町からの被害報告はなかった。

愛知県では伊勢湾や三河湾でのり養殖業が営まれており、平成22年度漁期には、養殖施設として支柱柵35,672柵、浮き流し柵49,527柵が沿岸域に設置されていたが、津波が発生した時期には生産のピークが過ぎ、生産網の撤去が進んでいたこともあり生産に大打撃を与える被害は発生しなかった。また、平成22年には愛知県で海水動力漁船が約5,500隻登録されていたが、津波が到達する前に漁港外へ漁船を避難させた漁業者もいたが、漁港内に係留してあった大部分の漁船は錨綱を締め直すなどの対応により被害を免れることができたとのことである。